

【質問内容】

1. 災害時の避難と安来市民防災マップについて
2. 公共無線LANの利活用について
3. マイナンバー制度と今後の住民サービスについて
4. ペーパーレス会議の導入について

4番作野幸憲議員、質問席へ移動願います。

〔4番 作野幸憲君 質問席〕

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野議員の質問時間は50分間です。

作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 議席番号4番作野幸憲でございます。

議長に許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

質問に先立ちまして、先月19日深夜より20日の未明にかけて広島市を襲った局地的豪雨で多くの方の尊い命が亡くなりました。お亡くなりになった方々に哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆様方にお見舞い申し上げます。

それでは、早速最初の質問に入らせていただきたいと思います。

まず最初に、「災害時の避難と安来市民防災マップについて」質問をいたします。

今回の広島市の災害は、一瞬にして人命や財産を奪う土砂災害の恐ろしさを改めて我々に教えてくれました。私は今回は土砂災害を中心に質問をさせていただきます。

国土交通省によりますと、全国には土砂災害の危険箇所が約53万カ所、島根県は広島県に次いで多い約2万3,000カ所があります。危険箇所の形態分布を見ますと、隠岐の島を含めてほぼ県内全域にわたっております。国土交通省は今回の広島県の土砂災害に当たり、9月5日に都道府県に対し、住民が土砂災害の危険性を理解できるようハザードマップや避難場所をホームページに掲載するなどの作業を1週間以内を目途に行い、周知を進めるよう要請いたしました。さらに、土砂災害危険箇所については、避難勧告の発令基準など行政側の避難体制を1カ月以内に総点検することを求めてきております。

そこで、お尋ねいたします。

昨日の佐々木議員の質問と一部重複をいたしますが、安来市における土砂災害警戒区域は何カ所ありますでしょうか。旧安来、広瀬、伯太別も含めてお答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 仲西統括危機管理監。

▼○統括危機管理監（仲西寛治君）▽ 市内に土砂災害警戒区域の指定箇所は2,023カ所ございます。そのうち土石流危険渓流箇所1,000カ所、地区別では安来地区174、広瀬480、伯太346カ所でございます。また、急傾斜地崩壊箇所1,023カ所、地区別では安来279、広瀬455、伯太289カ所となっております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ありがとうございます。

この後レッドゾーンについての質問も準備しておりましたが、きのう佐々木議員さんの答弁でレッドゾーンについてはないということでしたので、省略させていただきたいと思えます。

先ほども答弁の中にありましたように、土砂災害警戒区域は土石流危険箇所と急傾斜地崩壊危険場所に区分されております。

そこで、お尋ねしたいと思いますが、安来市には土砂災害警戒区域における、これも先ほどもう一緒に答弁していただきましたので、これもちょっと省略させていただきます。

それでは、次に移りたいと思いますが、過去5年間に土石流と思われる土砂災害は安来市ではありましたでしょうか。あったら何回あったのか、またあればこれは警戒区域内で起こったのか、それとも外で起こったのかお答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 仲西統括危機管理監。

▼○統括危機管理監（仲西寛治君）▽ 過去5年で申し上げますと、平成23年に2カ所、昨年7月の豪雨災害で2カ所発生しており、そのうちの2カ所につきましては土砂災害警戒区域内に位置しております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今のお話ですと、4カ所あって2カ所のほうは区域内だったが、もう2カ所は区域外だったということでした。

それでは、たしか私の記憶では公共施設では昨年の7月の豪雨災害で小竹浄水場、ここも土石流被害に遭ったと記憶しておりますが、先ほど土石流の話はしていただきましたが、民家が被害を受けた場所はございましたでしょうか。これも区域内、区域外で答えをいただけるとありがたいと思えます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 仲西統括危機管理監。

▼○統括危機管理監（仲西寛治君）▽ 昨年7月の豪雨災害で、伯太町赤屋地内の土砂災害警戒区域内で先ほどの2カ所のうち、住宅の一部に土砂が流れ込んだ事案が1件発生しております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ありがとうございます。

今、近年の安来市での状況を答弁いただきましたが、私は土砂災害を防ぐにはハード部門の整備とソフト部門の整備があると思っております。ハード部門は代表的なものとして土石流に有効と言われている砂防ダムなどの設置をする砂防事業と、また急傾斜地崩壊防止施設等を設置することによって人の命を守る急傾斜地崩壊対策事業があります。ソフト部門では、まさに土砂災害警戒区域等の指定や地域の風水害対策情報、いわゆるハザードマップなどがあります。ハード部門の砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業は国や県の事業であり、年々この予算は減ってきていると私は認識しておりますが、そこでお尋ねしたいと思えます。

安来市における砂防予算や急傾斜地対策予算の配分は近年どのような推移をたどっておりますでしょうか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野基盤整備部長。

▼○基盤整備部長（作野立生君）▽ 砂防対策予算及び急傾斜地崩壊対策予算につきましては、島根県の予算でございます。広瀬土木事業所に確認しましたところ、安来市の砂防対策予算につきましては平成24年度が1億5,700万円、平成25年度が4,000万円、平成26年度が5,000万円。また、急傾斜地崩壊対策予算につきましては、平成24年度が6,900万円、平成25年度が1,000万円、平成26年度が3,500万円となっており、それぞれ年々減少の傾向でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 先般、国は平成27年度概算要求で砂防予算などを増やすという方針を示しておりますが、全国の箇所を考えますとなかなか多くを望むことは難しいのが現状かなと私は思っております。そこで、重要になってくるのがソフト部門を使つての対策になると考えます。まずは安来市のハザードマップ、「安来市民防災マップ」について質問をしたいと思つています。

安来市では国、県から公表されたデータに基づき、平成19年に安来市民防災マップを作成され、同年9月に全戸に配布しておられます。このマップは市内を各交流センターを基準として9地区に分け、住まいの地域に合わせ配布をしておられます。記載内容は浸水想定区域、土砂災害警戒区域、避難所設置施設、災害時要援護者施設などが表記してあります。しかしながら、市民の皆さん方は安来市民防災マップがあること自体を知らない方、あるいはもらった記憶があつてもすぐに活用できるところにある方は、私は非常に少ないと思つています。

そこで、お尋ねいたします。

平成19年9月に安来市民防災マップ、いわゆるハザードマップは全戸に配布してはありますが、その後マップに関する広報や活用について再認識してもらつような対策は何かとられておられましたでしょうか、ただ配つて終わつてゐるのではないかと思つていますが、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 仲西統括危機管理監。

▼○統括危機管理監（仲西寛治君）▽ 平成19年に全戸配布しましたハザードマップを通じ、安来市における各種災害時における危険の現状を住民の皆様に認識していただくよう防災講習会などの折、周知に努めております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 機会があるときには周知をしているということですが、全体的な部分での周知ということになるとなかなかできていなかったのかなと思つています。今回の広島土砂災害以降、マスコミもハザードマップの重要性ということがあるということで、随分取り上げられてきております。安来市民の皆さんにももう一度ハザードマップについて再認識をしていただければと思つています。

私は以前から指摘もしておりましたが、この安来市民防災マップにはさまざまな問題点があると思っております。浸水想定区域の表示については、市内を流れる飯梨川、伯太川、山佐川及び中海を対象に、河川ごとの水道施設の整備状況とおおむね80年に1回程度発生が予想される大雨の状況等を照らし、飯梨川、伯太川、山佐川が決壊、氾濫した場合の浸水範囲と深さをシミュレーションしたものでございます。しかしながら、近年頻繁に発生している長雨や局地的な豪雨で起きた浸水範囲を照らし合わせてみますと、このマップの浸水想定区域と違っている箇所もかなりあります。また、土砂災害警戒区域についても地区ごとに9地区に分けてはありますが、特に南部のマップでは面積が広いこと、公共施設など目印になるものが少ないことなどもあり、文字表示が非常に少なく、自分の家がどこに位置するのか確認するのも容易では私はないと思っております。また、防災マップがおさめられている封筒部分の災害時の対応等についても私は見直す必要があるのではないかと思います。

そこで、お尋ねいたします。

このように今のハザードマップは多くの問題点があると思っておりますが、今後ハザードマップの見直しは考えておられますでしょうか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 仲西統括危機管理監。

▼○統括危機管理監（仲西寛治君）▽ 現在県で行われております土砂災害特別警戒区域の基礎調査及び指定の状況により、見直しが必要と考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今までも国とか県からのデータをもとに安来市がつくっておられますので、そういうデータがそろい次第、早急にハザードマップを見直していただきたいと思っております。

また、今回の土砂災害によって深夜の避難をどうするかということが浮き彫りになってきているなあと思っております。深夜の避難情報を市民にどう伝えるかがどれだけ重要になっているかということです。内閣府の中央防災会議の災害時の避難に関する専門調査会における資料を見ますと、住民が避難行動を開始するタイミングはいつか？という調査がありまして、その資料を見ますと8割近くが避難準備情報や避難勧告、避難指示が発令されたときとなっております。住民は何らかの避難情報がないと避難を開始しないということでございます。また、今回の広島の場合、大雨によって被災した多くの地域が停電になっております。停電になると電気を使う多くの手段は使えなくなります。このことが安来市に起こった場合を考えてみます。安来市ではことし4月より緊急情報通信システムが運用され、今まで以上に多くのツールを使って情報を流すことができるようになりました。このシステムは安来市ホームページ、やすぎどじょっこテレビのテロップ放送、行政告知放送、フェイスブック、ツイッター、エリアメールといったものから流すことができます。とは言っても、停電になると市民はそう簡単にこれらから情報を得ることは難しくなります。そこで、頼りになると考えられるのが行政告知端末とヤフーなどが行っている防災情報ツール、そしてここではちょっと企業名を上げないと理解していただくことが難しい市民の方もいらっしゃると思っておりますので、あえて企業名を上げ

させていただきますが、ドコモやau、ソフトバンクなどの企業が協力をしていただいているエリアメールです。行政告知端末は安来市内の大多数の家に設置してありますが、寝室に設置しておられる方はほとんどいらっしゃらないんじゃないかと思います。また、停電時のことを考えて乾電池をまめに交換しておられる方もそう多くないと私は想像します。ですので、この機会に行政告知端末の乾電池はぜひともチェックをしていただきたいと思います。

また、ヤフーなどが提供している防災情報ツールは携帯電話やスマートフォンなどにダウンロードして設定する必要がありますので、不慣れな方には難しい面もあると思います。そうなる一番威力を発揮すると思われませんが、先ほどから言っているドコモやau、そしてソフトバンクが提供を協力していただいているエリアメールです。夜寝るとき、枕元に携帯電話やスマートフォンを置かれている方は私も含め多いと思います。そう古くない携帯電話やスマートフォンを持っておられる方には緊急地震速報や津波警報など、国などが発信する情報が大きな音とともに自動的に入ってきます。しかしながら、避難勧告や避難指示、避難準備情報、自主避難の呼びかけは自治体が発信することになっておりますので、深夜、いかに迅速に情報を発信するかがポイントになってまいります。また、先ほどの内閣府の調査では避難準備情報、避難勧告、避難指示の違いを理解しておられない方も4割以上おられるということですので、確認のためにちょっと紹介をしておきます。

まず、避難指示です。避難指示は、被害の危険が目前に切迫している場合等に発せられ、勧告よりも拘束力が強く、居住者等を避難のため立ち退かせるための行為です。避難勧告は、その地域の居住者等を拘束するものではありませんが、居住者等がその勧告を尊重することを期待して避難のための立ち退きを進め、また促す行為です。避難準備情報は、要援護者等、特に避難行動に時間を要する者は計画された避難場所への避難行動を開始、避難支援者は支援行動を開始、それ以外の方は家族等との連絡、非常用持ち出し品の用意等避難準備を開始するという意味になっております。先ほども話しましたが、それ以外にも自主避難の呼びかけがあります。

そこで、お尋ねします。

安来市では緊急情報通信システムのエリアメールを使って市長の指示のもと、避難勧告や避難指示などを発信することはできますが、体制はどのようになっておりますでしょうか。深夜の体制も含めてお答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 仲西統括危機管理監。

▼○統括危機管理監（仲西寛治君）▽ 避難情報につきましては、日中、深夜に関係なく市民の皆様に対し、正確に伝達することが重要であります。伝達方法としましては、今年度より運用しております緊急情報送信システムにより、行政告知放送、安来市ホームページなどに情報発信しております。

また、議員ご指摘のとおり、エリアメールにつきましては携帯電話事業者の規定により発信できる内容が制限されていますが、避難勧告などの喫緊の情報に限り利用が許可されていますので、避難情報発信の際には利用してまいります。また、民間が行っております防災情報を知

らせるメールサービスの周知のほうにも努めてまいります。

深夜の体制につきましても、天候の状況に応じ、市の警戒本部を早目に立ち上げ、危機管理職員を集めて状況を見ながら幹部職員を集め、事前にとるべき対応、対策について協議しております。

また、避難情報などの発信の判断順位につきましては、市長、第1副市長、第2副市長、総務部長の順位で発信すると定めており、二重三重の体制をしいて万全を期しております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 答弁をいただきましたが、深夜について最近には急に大雨が降るといことが頻発しております。事前になかなか予測できないということも当然想定しなくてはいけないと思います。その場合、じゃあ準備する時間がない。市長から指示を求めて避難指示とか避難勧告を出す。そうなった場合、いちいち庁舎まで来てパソコンから出してたらすごい時間がかかったり、あるいは庁舎まで担当者が来ることが不可能な場合も想定できると思います、最近の大雨から見ると。そういう場合の対応策、例えば私は技術的にはスマートフォンや携帯電話からパスワード等を入力すれば、担当者が家から発信することは可能だと思っておりますが、そのあたりはどのような対応を考えておられますでしょうか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 仲西統括危機管理監。

▼○統括危機管理監（仲西寛治君）▽ 緊急情報一斉配信システムによりまして、手動でエリアメールの発信は可能でございます。これは安来市のイントラネット内部の端末であれば広瀬の庁舎、伯太の庁舎、各交流センターなどからでも操作はできます。

以上です。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今の答弁ですと庁舎からはできるけど、担当者の手元にあるスマートフォンとか、そういうものからはできないということですか、それも両方できるということですか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 仲西統括危機管理監。

▼○統括危機管理監（仲西寛治君）▽ 現在のところイントラネットがつながっていないとできないという状況です。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 私は多分技術的にはもうこれも可能になっていると思いますし、もう少しその辺はしっかりと準備していただいて、情報をきっちりとして、やり方によってはできるような気がしておりますので、そこら辺はしっかりと確認をしていただきたいと思っております。

そういうことで、いかに迅速に情報を発信するかということが大事になってきております。先ほどエリアメールにはいろいろな制限があって、避難勧告とか避難指示については使うことができるということでございますが、私はその避難勧告というのは避難場所へ移動を促す、先ほどもご紹介しましたが、そういう意味合いのものでございますので、最近の災害からいいま

すと、待避とか垂直避難といって2階に上がるとか、水平避難といって家の近くの安全な場所に行くとか、そういう部分も深夜等では制限がありますので、どこまで伝えることができるかは私も今ははっきりわかりませんが、そういう部分のことも含めてメールを流していただくようなことも考えていただきたいと思います。

それから、先ほどの内閣府の調査によりますと、深夜において自治体で避難所が開設できていないために避難情報をためらった自治体の事例も結構載っておりました。そこら辺は当然避難所ができていないのに避難勧告をして行きなさいということは、これは危険を増幅するものでございますので、その辺のところも避難勧告、避難指示を出されるときによく考えていただいて、対策をしていただければと思います。

先ほどからいろいろ話をしてきましたが、今や先ほども仲西次長のほうからも答弁がありましたが、今後より大事になってくるのは自主避難の呼びかけや避難準備情報の活用ということが非常に大事になってくると思います。どのタイミングでそういうものを出していくかということが非常に大事になると思いますし、一番重要なのはやっぱり空振りをおそれてほしくない、発信してちょっとそんな大雨じゃなかったけどということがこれはあってもしょうがないと思いますので、そのこともしっかり念頭に置いて対応をしていただきたいと思います。

それでは、2番目の質問に移りたいと思います。

「公共無線LANの利活用について」質問をいたします。

以前より私は公共無線LANの導入について質問をいたしました。一番最初に質問をいたしましたのは平成23年12月の定例会でございまして、フリースポットという言葉を使ってその当時は質問をいたしました。当時、フリースポットとはパワースポットの一種じゃないかということで間違えられた執行部の方もおられました、それからいろいろ言葉は変わってはきましたが、最近ではWi-Fiポイントの設置などという言葉が一番一般的になってきたところでございます。安来市におかれましては公共無線LANの重要性を執行部の方にもご理解をいただき、最初は1カ所とか数カ所の設置でございましたが、ここに来て今年度末までに防災の観点から安来市内の約70カ所に設置されるという計画を聞き、大変私、喜んでおりますし、ここに来て大変早い対応をしていただいていることに感謝を申し上げたいと思います。

そこで、お尋ねしたいと思いますが、約70カ所のWi-Fiポイントの設置はどういう手順で年度末までの運用を目指していけますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ まずもって高いご評価をいただきまして、まことにありがとうございます。

まず、今回のWi-Fiポイントの整備でございますが、総務省の補助事業で、地域ICT強じん化事業（防災情報ステーション等整備事業）を活用いたしまして、ご説明にございました市内の避難所など公共施設70カ所に無料の公衆無線LANのアクセスポイントを整備するものでございまして、市との連携事業として山陰ケーブルビジョンが事業主体として進めておりま

す。

今後につきましては、事業の交付決定が7月30日付で既におりておりますので、来月中9月中には事業着手し、年内に無線LAN管理用のセンター施設を完成させ、工事が完了したWi-Fiポイントから順次試験運用を行う予定でございます。来年1月には整備済みの箇所、大半が整備済みになっておるかと思いますが、その箇所でも供用開始をいたしまして、来年3月末までには全箇所でも本格運用する予定であるというふうに確認をしております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ありがとうございます、私も褒めるときはちゃんと褒めますので。

また、報道によりますと、インバウンド対策として外国人観光客用の地域観光アプリを開発するというところでございますが、これはどのようなものでございますか。また、日本人向けの対応は当然あると思っておりますが、この点についてもお答えいただけますでしょうか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 横田産業振興部次長。

▼○産業振興部次長（横田一道君）▽ 現在、安来市観光協会におきまして観光案内を補強するツールとしてスマートフォン向け観光アプリケーションを提供し、県内外はもとより、海外からの観光客向けの観光や地域情報の案内を発信する予定としております。早ければ10月、遅くとも11月中旬までには運用が開始できるように準備を進めておるところでございます。具体的には安来市内の観光名所や観光施設をスマートフォンで案内するほか、GPS位置情報に応じて町歩きに適したお薦めルートを地図画面上に表示し、誘導いたします。また、スマートフォンのカメラレンズに映り込んだ風景に観光施設、史跡等の情報が画面の上に重ねて表示され、案内を行います。その他、主要スポットには日本語だけではなく、外国語表示に対応する予定としております。

以上でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今のアプリについてはよくわかりましたが、安来市が主導でつくっていかれるということであれば、これはどこまでの範囲のものかというのが大事になってくると思います。このアプリの周辺地域との連携とかはどうなっておりますでしょうか、お答えをいただければと思います。

▼○議長（金山満輝君）▽ 横田産業振興部次長。

▼○産業振興部次長（横田一道君）▽ 近隣の自治体におきましてもスマートフォン向けの観光アプリケーションを導入あるいは検討中であり、先日とも松江市さんが松江の商工会議所のほうに委託をされながら、こういう事業を展開されるということいろいろお話をさせていただく中で、相互にリンクを張るなどをして観光情報の共有並びに連携を図っていきたいというふうに思っております。中海圏域市長会の中でもリンクを張りながら情報の共有あるいは情報発信ができればなというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今のお話を聞きますと、松江は松江、安来は安来で別々のアプリがあって、それでリンクとかを張って連携をするということのようですが、本来であればこの圏域で1本のアプリケーションに統合していただければ見れるような仕組みに将来的にはしていただけたほうが使い勝手が随分違って来るんじゃないかなと私は思っております。なぜかという、やっぱり観光には県境とか境というのはないわけですので、そういう意味においてもやっぱりそういう形のもが一番良いと思いますので、またこれは中海・宍道湖圏域、大山圏域の市長会等でも統合するような話をまた具体的にさせていただければありがたいと思います。

それから、せっかくこういうアプリをこれから運用していただくということになると、やっぱりパソコンとかスマートフォンなどで検索したときに、このアプリにすぐに誘導していただくような、要はキーワードなどにもやっぱりかなりこれによってヤフーとかも検索サイトというのがありますが、一番上に来るかページを何十枚もめくらないと出てこないかではこの観光についても全然違ってまいりますので、そこの辺もしっかり配慮していただければと思います。

それでは、次に3番目、「マイナンバー制度と今後の住民サービスについて」質問をしたいと思えます。

昨年5月24日に国会で可決成立した国民を番号で管理する共通番号制度、社会保障と税における番号制度、いわゆるマイナンバー制度が平成29年の運用に向け安来市でも準備が本格化してまいりました。運用に向けては多くの課で膨大な準備作業をされることとなると思いますが、負担も多いと思いますが、将来の住民サービスを考えたときに非常に重要な制度、システムでございますので、しっかりと準備はしていただきたいと思っております。

そこで、お尋ねしたいと思います。

マイナンバー制度の導入へ向けての準備は順調に進んでおりますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ いわゆるマイナンバー法に基づきまして地方公共団体に求められる主な対応といたしましては、推進体制の整備、対象事務の洗い出し、付番、番号交付事務、特定個人情報保護、例規整備、システム改修、あるいは一事業者としての税制上の対応等がございます。

組織体制につきましては、定住課と統括課として関係主管課5課によります連絡会を設けるとともに、全課に番号制の担当者を配置し、研修会を開催したところでございます。また、個人番号に要すべき事務及び業務連携を行うべき事務は洗い出しを行いましたので、今後独自利用についても検討を進めてまいりたいと思っております。

特定個人情報保護及び例規整備につきましては、対象事務の調査、システム改修についてはまず総務省補助対象のものから着手するところでございます。個人番号の通知、カードの交付、

情報連携の開始時期が示されておりますので、確実に導入、運用できるよう庁内の関係部署で連携を密にしておりますので、順調に進んでいるものと考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 順調に進んでいるようですので、安心いたしました。

先般8月5日、島根県市議会議長会議員研修会において、この道の第一人者で安来市広瀬町出身の東京大学大学院情報学環長の須藤修先生の講演を聞きました。以前にも私はこの件について一般質問をしておりましたのでとても興味深くお話を拝聴し、安来の将来のため、議会としてもしっかりしていかなければならないことを痛感いたしました。その講演の中で須藤先生よりこんなお話がございました。

要約しますと、導入時は社会保障、税、防災分野が対象ですが、法施行後3年後をめどに用途拡大が予定されております。地方議会で条例を制定することによって銀行カードやクレジット、マイレージなどもできますし、戸籍事務、旅券事務、医療、介護、健康情報の管理連携などもさまざまな分野での情報サービスの充実にも利活用できるようになります。また、複数の自治体で情報システムの共同化により国の協力を得られるようにもなります。つまり、やる気のあるところにはお金を出すという国の方針だそうです。その対応によっては住民サービスに自治体単位で大きな格差が生じます。ですから、議員の皆さんも含めて今からそのことを考え、政策を立案し、県や県内市町村等と連携していく必要があるというお話でございました。

そこで、お尋ねしたいと思います。

安来市は将来に向けてこれからどのように取り組んでいけますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ 独自利用につきましては、単独利用も想定をされるわけですが、まずは広域連携、これが極めて重要ではないかと思っております。独自利用の広域連携については、島根県及び県内市町村、島根県市長会、島根県町村会、広域連合などで構成いたします番号制度導入に伴う市町村事務処理研究会を組織いたしておりまして、第1回会議を7月8日、第2回会議を7月30日に開催をして現在検討を進めているところでございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 全国では千葉市や前橋市、熊谷市などが先進地でございます、この近くでは鳥取県や南部町も須藤先生の協力を得て将来に向け既に動いておられます。地元出身にこれだけの先生がおられるわけですから、安来市も須藤先生の協力をお願いし、全国に自慢できる住民サービスの構築をしていただきたいと思いますと思いますが、市長さん、うなずいておられますが、何か。

▼○議長（金山満輝君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 作野議員さんの質問にお答えいたします。

私も須藤先生はご承知のように、梅林議員さんの義理の弟さんに当たる、大変今ICT、日

本の第一人者でございまして、政府とかそういうところでリーダーとして活躍をされております。

私も一昨年でしたか、誘われてぜひ来てくれということで、北海道まで研修に行ったことがございます。ちょうど隣の米子市長さんも来ておられました。須藤先生がじきじきにうちの市長室に来ていただいていろいろお話を伺ったところでございます。ぜひともこれを先生の特に地元ですので、この辺、特化をしてそういう開発をしていきたい、こういうふうに思っております。よろしくお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ それでは4番目、「ペーパーレス会議の導入について」質問をしたいと思います。

この質問も過去2回質問をさせていただいております。前向きととれる答弁を2回ともいただいております。今回は行政改革という視点での安来市全体におけるペーパーレス化と議会へのタブレット端末導入について、ちょっと切り離して質問をしたいと思います。

まず、行政改革の視点でわかりやすく言うと、さらなる経費削減と業務の効率化についての質問になると思います。

現在、新消防庁舎の建設、安来庁舎の建てかえ、市民会館の移転建築、給食センターの整備など大きなプロジェクトが進んでおります。そして、先ほども質問しましたように、マイナンバー制度の導入や公共無線LANの導入に向けても動き出しております。ICTを今まで以上に活用できる環境は全国ほかの市町村のどこに比べても、私は安来市は整いつつあると思っております。これを利用しない手はないのです。

そこで、質問をさせていただきますが、安来庁舎建設にあわせて少しずつでもペーパーレス会議の導入を進めるべきと私は考えますが、検討状況はいかがなっておりますでしょうか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 清水総務部長。

▼○総務部長（清水保生君）▽ ペーパーレス会議につきましては、これからの時代、その必要性を多くの方が理解されているものと思っておりますが、導入に際しましてはどこまで、そしてどのように運用していくかということと十分検討する必要があると思っております。新安来庁舎の建設につきましては、現在基本設計を進めているところでございますが、ご質問のペーパーレス会議につきましては事務の効率化、それから最終的には焼却ごみとなります紙などの省資源化、これを図る観点からも導入に向けて検討しております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ありがとうございます。

できれば新庁舎ができるときに窓口サービスなどをタブレットに移行していただくことから始めていただければ良いのかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは次に、議会へのタブレット端末導入について質問をしたいと思います。

近年、全国各地の議会でタブレット端末を使ったペーパーレス会議の導入がもう時代の流れになりつつあります。私も議員を5年やっておりますと、家にA4サイズの資料が天井まで届くぐらいもう溢れているのが現状でございます。

そこで、とりあえずお尋ねしたいのは、年間の紙ベースでの議会資料の枚数と経費は現在どれぐらいかかっておりますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 清水総務部長。

▼○総務部長（清水保生君）▽ 平成25年度の実績の概算でございますが、定例会議で配付する予算関係資料は、業者印刷や自前印刷等を合わせましてページ数は約2,300ページ、それから印刷製本費、これには印刷製本にかかわります職員の人件費は入っておりませんが、これが約250万円という状況でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 議会のタブレット端末導入に当たっては、いろいろな形でただ単にタブレットを購入して動かしていくということとか、システムまで必要になってくるということがありますが、おおよそ概算で結構ですのでどれぐらいかかるか、お答えをいただければと思います。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部長。

▼○政策企画部長（木村慎治君）▽ どこまでのシステムを導入するかによっても価格が変わります。いろんな条件、その機能が変わってまいります、今私どものほうで市販のもので確認をしておりますのが、一番安いもので例えば議員、あるいは執行部用の台数45台といたしまして270万円からある程度高性能のそれなりに使うシステムの統合を含めると、ある程度リースで5年間で3,000万円程度ということで、かなり情勢次第で変わってこようかなと思っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野幸憲議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 一般的にはいろいろなことがありますが、これを導入するには議員、そして執行部の皆さんも使えるようになるということがないといけないと思っておりますので、これからは議会のほうもしっかり検討することをお願いしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

先ほどからずっと話しましたように、安来市にはICTの環境が全国に誇れるぐらい今これから整備もされつつありますので、ぜひともこれを将来の安来の目玉にしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

以上で私の一般質問を終わります。

▼○議長（金山満輝君）▽ 以上で4番作野幸憲議員の質問を終わります。